

依存性パーソナリティ障害の診断基準

面倒を見てもらいたいという広範で過剰な欲求があり、そのために従属的ではがみつく行動を取り、分離に対する不安を感じる。成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（又はそれ以上）によって示される。

チェック

(1)	日常のことを決めるにも、他の人たちからのありあまるほどの助言と保証がなければならない。	
(2)	自分の生活のほとんどの主要な領域で、他人に責任を取ってもらうことを必要とする。	
(3)	指示又は是認を失うことを恐れるために、他人の意見に反対を表明することが困難である。 注；懲罰に対する現実的な恐怖は含めないこと。	
(4)	自分自身の考えで計画を始めたり、又は物事を行うことが困難である（動機又は気力が欠如しているというより、むしろ判断又は能力に自信がないためである）	
(5)	他人からの愛育及び支持を得るために、不快なことまで自分から進んでするほどやりすぎてしまう。	
(6)	自分の面倒をみることができないという誇張された恐怖のために、一人になると不安、又は無力感を感じる。	
(7)	1つの親密な関係が終わったとき、自分を世話し支えてくれる基になる別の関係を必死で求める。	
(8)	自分が一人取り残されて、自分で自分の面倒をみることになるという恐怖に、非現実的なまでに囚われている。	

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。